



大原 広巳 議員

# 森林資源の活用は？

町長

## 農・林・水産を連携して行う



いつまでもきれいな川で

【大原】循環型森林資源活用計画とは何か。

【町長】近年多発している土砂災害を防止し、湧水や洪水をなくし、豊かな大地を守る事業である。

【大原】農業・水産業との連携は。

【町長】おが粉の畜産堆肥化による耕畜連携で、名和畜産センターとの連携をはかりたい。また漁礁としても利用できないか、漁協とも協議を始めた。

【大原】森林資源の工

ネルギーとしての利用は。

【町長】間伐材を利用して、まきストロブ、ペレットストロブの普及をはかりたい。設置費用の3分の1、上限18万円を助成する。

【大原】計画の最終目標は。

【町長】森林資源を最大限活用して、大切な自然環境を保全し、町民の生活を守りながら、観光や産業の発展、移住定住の推進などにつなげることである。

# 10年プランの策定とは？

町長

## 今後のまちづくりの

## 指針にする

【大原】次期総合計画

となる「未来づくり10年プラン」の策定が始まっているが、現状はどうか。

【町長】これからのまちづくりの指針とするために、若い世代の意見を交えながら、策定を進めている。

全国的に実績のある(株)studio101に委託し、役場若手職員の研修も行った。

【大原】どのように次世代の意見を反映させるのか。

【町長】2月の終わりに説明会を開き、若い世代にも多く参加してもらった。ワークショップを通じて、さまざま

意見交換がはかれたと思う。

【大原】今後の計画は。

【町長】5月から毎月ワークショップを開催しながら、先進地の視察を行い、平成26年度中には報告書としてまと

めたい。

【大原】「まちづくり」は「ひとつづくり」と考えるが、十分な事業費だと思うか。

【町長】今の予算で最大限の効果を上げるよう努力する。



ワークショップでの意見交換